

千葉都市モノレール “アーバンフライヤー”

Chiba Urban Monorail “Urban Flyer”



交通・先端機器事業部
 交通営業部 営業一課
 ☎(0848)67-2806

このたび、当社交通・先端機器事業部は千葉都市モノレール(株)より次期更新車両を受注したので、その概要と特徴を紹介する。

1. 概要

千葉都市モノレールはゴムタイヤ方式の懸垂型モノレール車両である。

現在運転している車両のうち、初期に製作した車両が製造から 20 年を経過したことから、順次、新型車両に代替していくこととなっている。当面は、平成 24 年度までに3編成6両を製作することとしており、第1号車は 24 年初に竣工、運転士の訓練等を経て、24 年度から営業運転を開始する予定である。

2. 更新車両の特徴

2.1 特徴

既存車両の更新のため、新型車両は、従来車の構造をベースとしつつも、LED/音声による行き先案内装置など高齢者・障害者に必要な設備を装備するとともに、“千葉モノレール新型車両デザイン検討委員会”から提案されたデザインを採用するなど“空中飛行車両”として、千葉市のシンボルとなるよう、先進的でシャープな車両とするべく設計をすすめている(表1, 図1)。

表1 基本仕様・諸元

編成	2 両 / 1 編成	運転性能	最高速度 65 km/h
定員(予定)(人/両)	83 人 (座席定員 30 人)		加速度 3.5 km/h/s
車両寸法	15 400 x 2 580 x 3 715 mm		減速度 (常用) 3.5 km/h/s
車両重量	21.5 t		(非常) 4.5 km/h/s
電気方式	1 500 V	ブレーキ方式	回生/発電ブレーキ併用電気指令式
制御方式	VVVF インバータ制御		空気ブレーキ (保安/留置ブレーキ付)

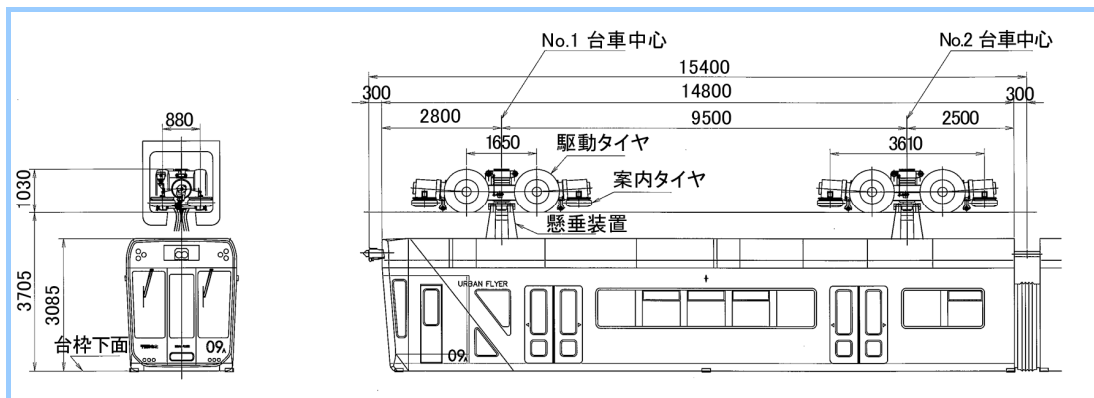


図1 形式図

2.2 インテリアデザイン

特に内装のデザインにおいては、懸垂型モノレールの特徴を生かした眺望性による“空中飛行車両”を具現化するため、運転室/客室仕切りを通して運転室床面から地上を眺めることができるようにするなど、工夫を凝らす計画となっている(図2)。



図2 インテリアデザイン